

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6年 1月 17日

公表:令和 6年 1月 30日

事業所名 チャイルドウィッシュきくち

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	事業所自体狭いが、勉強部屋と遊ぶ部屋のスペースを分けるなど工夫をしている。	
	2	職員の配置数は適切である	2	2		送迎時間などの配置も考えて、人員を増やしたい。(同回答2名)
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	1		該当児はいないが、いるいないに関係なく配慮できると良い。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	0	スタッフ会議で定期的に業務の振り返りや改善など取り組んでいる。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	0		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	1		第三者による評価は設けていないが、外部からの目は必要に感じる。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0	必要に応じて、定期的に研修や会議等開催している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3	0	モニタリングやアセスメントから計画に反映している。全職員と計画を共有し、今後も計画に沿った支援をしていく。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	1		具体的なアセスメントツールがないため、今後取り組んでいきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	0	担当スタッフはいるが、その他スタッフも介入しながら取り組んでいる。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	0	活動プログラムを展開しながら、出来る幅が広がるよう工夫している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	1	確保できる時間の中で、精一杯支援ができるよう努めている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	0	児童の特性に応じた個別支援計画を作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	子どもの家庭で気になることは積極的に情報共有を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	0	必要に応じて振り返りなどを行っている。全体に周知が必要な明愛は、その日のうちに話し合えるよう取り組んでいる。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	0	正しい記録と、記録内容の確認を行っている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	0	検討事項があれば、スタッフで共有して、必要があれば見直しなどに取り組んでいる。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3	0	色々な活動を通して心身ともに発達できるようサポートしている。	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	0	支援に関わるスタッフの参画や、会議内容の共有を大切にしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	0	保護者の方や学校等と連絡を取り合いながらスムーズな支援ができるよう努めている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	1	該当児はいないが、ある場合は連携等進めている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	0	就学前に限らず、日々の中で連携を取り合い相互理解を深めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	1		対象児童はいないが、今後(以降がある場合は)情報提供をして縦のつながりも大切にしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	1		今後は専門機関の研修などを受け、スタッフの知識等を高めていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	2	外部のイベント等に参加して、地域とのつながりを大切にしている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	2	今後は協議会等へ参加して積極的に情報収集をしていきたい。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3	0	療育の中で児童の様子等を保護者に伝え課題解決にも取り組んでいる。	
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	2	事業所で取り組んでほしいこと、自宅で取り組んでほしいこと等助言している。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	契約時や、各種規定変更時は最新のものを説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	保護者の方の悩みや困りに寄り添いながら対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	3		コロナ禍もあり、できていなかったため今後は開催できると良い。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	苦情があった際はスタッフで共有、改善等迅速に対応し、実行している。また保護者の方にも周知している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	活動等があればその都度に対応、漏れの内容対象の家庭に周知している。	
	35	個人情報に十分注意している	4	0	個人情報には十分に注意し、安心・安全に利用していただけるよう努めている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	0	児童の特性や家庭状況等に配慮しながら連携を取っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	1	地域住民を事業所の行事に招待する場合は、適切な段取りを踏んでいく。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	0	各種マニュアルの作成と、スタッフへの周知をし、対応できるよう努めている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	児童を含め、避難訓練等を実施し、いざという時のために備えている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	g約対帽子に関する研修等実施し、日々の療育に活かしている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	0	身体拘束についての取り決めや、保護者の方への説明、計画の記載をして、関連書類の保管をしている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	0	保護者の方に確認しながら、事業所で注意し対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	0	ヒヤリハットがあった際はスタッフで共有、改善策の話し合いをしている。	